


## 第2期勝山市地方創生総合戦略





「第2期 勝山市地方創生総合戦略」  
進捗状況について




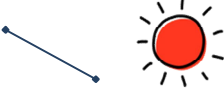
政策分野		2つの「創る」 地域の未来を創る			
政策目標1		活力あふれる地域コミュニティを創る			
No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
1	地域の自然や景観、歴史・伝統・文化の保存・保護活動を支援	商工文化課	・市民総合大学を「ジオパーク講座」とし、地球科学と歴史・文化を総合的に学べるものとした(計14回実施)。 ・史跡白山平泉寺旧境内、市指定文化財ミチノフクジュソウなどで地域住民が主体となる清掃活動等への広報や支援を実施。 ・「勝山市文化財保存活用地域計画」で作成した文化財リストにもとづき、所在確認や「史実」「伝承」などの区分を明確にする課題があり、地区と連携しながら地域の文化財について再確認調査を行う。	・市民総合大学は「かつやま地域学部」とし、地球科学・歴史・文化が総合的に学べるものを引き続き行っていく。 ・清掃活動等に参加した子どもたちが次の探求活動に活かしているのか課題。参加した学校と連携・協力して子どもたちの探求活動に運動できるように仕組み作りを検討する。 ・文化財リストにもとづき、所在確認や「史実」「伝承」などの区分を明確にする課題があり、地区と連携しながら地域の文化財について再確認調査を継続していく。	
2	地域住民主体のコミュニティ活動を支援	総務課	令和6年度のにこここ地域づくり交付金の交付は10地区総額35,777千円で、市内各地で地域が主体となったまちの活性化を目指す112の事業が展開された。	にこここ地域づくり交付金事業がスタートして3年が経過したが、一部の地区において交付金の活用状況にマンネリ化がみられる。これまでに各地区で実施した事業内容、その結果などについて情報共有を行うとともに、ホームページ等を活用してまちづくりの状況を発信することで、地区外との連携や協力を図り、さらなるまちづくりを推進する必要がある。	
3	地域内外との連携促進および外部人材の活用	商工文化課	福井県移住サポーターが中心となり、移住者交流会を企画、移住希望者、移住された方の交流の場を図った。【R6.2.3、R6.3.20に実施。各17名参加】	引き続き、福井県移住サポーターが中心となり、移住者交流会を企画する。参加者を広く募るため、市広報に記事掲載、移住サポーターのSNSを活用する。移住支援補助金対象者には個別に通知し、周知を図る。	
4	コミュニティ活動の拠点となるまちづくり会館を設置	総務課	各まちづくり会館及びコミュニティセンターに、3名の地域担当職員を配置し、にこここ地域づくり交付金事業をはじめ、住民が主体となった地域づくりの活動を支援した。また防災・福祉の拠点施設としての強化を図るため、まちづくり会館職員に防災士養成研修(5名)、福祉職員キャリアパス対応生涯研修(5名)を受講させた。	各地区まちづくり会館の利用状況を検証すると、従来の公民館と比較して大きな違いがない。まちづくり会館を設置した時の本来の目的であるコミュニティ活動の拠点となるには、気軽に地域の様々な世代の住民が集い、人々がふれあう拠点となるような施設を目指す必要がある。	
5	ジオパークを生かした住民主体の活動を支援	未来創造課	・市民向けのジオパーク講座や小学校でのジオパーク学習、ジオサイトを活用した自然体験観察会を実施した。【ジオパーク講座1回実施、ジオパーク学習9回、自然体験観察会6回実施】	市民が、ここにしかない地形・地質遺産や自然・歴史・産業などにさらに魅力を感じ地域への愛着を深められるよう、講座や学習支援、自然体験観察会について引き続き実施する。 ・講座や学習支援については、地球科学的部分だけでなく歴史や文化面も含めて実施するよう検討する。	

重要業績評価指標

達成

未達成

判断時期未到来

指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
地域コミュニティの活性化を担うNPO 法人数	目標値	—	目標年次までの期間に3 組織以上						判断時期未到来	
	実績値	1	2	2	2					
市民アンケートにおける地区で行う「祭りや祭礼などの伝統行事」に参加している人の割合(積極的に参加、ときどき参加の合計)(%)	目標値	—	—	60	—	—	65		—	
	実績値	56.1	—	57.2	—	—				
市民アンケートにおける市が主催する「ジオパークに関する講座や自然体験活動」に参加している人の割合(積極的に参加、ときどき参加の合計)(%)	目標値	—	—	6	—	—	10		—	
	実績値	3.3	—	6	—	—				
中学生へのアンケートにおける「地域の歴史や文化を受け継ぐための活動」に無関心な人数の割合(%)	目標値	—	—	—	50	—	40		達成	
	実績値	61.0	—	—	9.2	—				

政策目標2

持続可能な集落を創る


No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
6	行政協力員制度および行政区の見直し	総務課	従来どおりの行政協力員の配置を実施したが、令和6年度は、県の集落活性化補助事業を活用し、市民3,000人と区長112人に自治会に関するアンケートを実施。回収率はそれぞれ43.9%、90.2%であった。アンケート結果は勝山市ホームページに公表。	アンケートの結果を受けて、各種委員の推薦方法の見直し、自治会補助制度の集約、広報の配布方法の見直し等の負担軽減策を全庁的に進めると同時に、具体的な行政協力員の配置案を検討する。	
7	最適な規模の行政区の構築	総務課	従来どおりの行政協力員の配置を実施したが、令和6年度は、県の集落活性化補助事業を活用し、市民3,000人と区長112人に自治会に関するアンケートを実施。回収率はそれぞれ43.9%、90.2%であった。アンケート結果は勝山市ホームページに公表。	アンケートの結果を受けて、各種委員の推薦方法の見直し、自治会補助制度の集約、広報の配布方法の見直し等の負担軽減策を全庁的に進めると同時に、具体的な行政協力員の配置案を検討する。	
8	集落の活動拠点の整備を支援	総務課	地区公民館施設整備費補助事業において、地区公民館の新築・改修にかかる工事費等を助成した。 事業費の30%以内、上限200万円補助 【11件 計4,454,130円を交付】	令和7年度も引き続き当該補助事業を継続。必要があれば福井県コミュニティ助成事業もあわせて活用していく。	

重要業績評価指標

達成

未達成

判断時期未到来

指標名	項目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
最適な規模に見直した行政区の数	目標値	—	目標年次までの期間に10 地区以上						判断時期未到来	
	実績値	—	0	0	0					

政策目標3

住民主体の新しいくらしを創る



No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
9	地域内交通の構築	未来創造課	・令和5年1月から運行している北郷地区方面及び野向地区方面のフルデマンドバスの運行実績は増加傾向にあり、運行に関するアンケート調査を実施した結果、利用者の約86%が今後も利用したいという意見だった。希望する時間に乗れることや定時路線よりも早く着くことを利便な点として挙げている方が多く、フルデマンドバスの特徴が利便性に反映されている一方で、乗車に予約が必要なることを不便な点として挙げている方もいた。 ・令和6年10月から荒土地区方面も含め3つの地区をエリアとしてフルデマンドバスの運行を開始した。	・令和9年度の新中学校開校のタイミングに合わせた市内公共交通体系の構築について、庁内協議および関係機関との連絡調整を行う。	
10	地域の暮らしを支える共助活動を支援	総務課	・大雪時の除雪活動を支援した。 【支援実績 13組織 27回】	より多くの除雪活動を支援するため、積雪前に周知を行う。	

重要業績評価指標

達成

未達成

判断時期未到来

指標名	項目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
公共交通(コミュニティバス)の利用者数(人/年)	目標値	—	80,000 以上						未達成	
	実績値	46,756	54,662	64,835	78,337					
市民アンケートにおける地区で行う「消防・防災訓練」に参加している人の割合(積極的に参加、ときどき参加の合計)(%)	目標値	—	—	42	—	—	50		—	
	実績値	33.5	—	33.0	—	—				

政策分野			2つの「創る」 まちの楽しさを創る		
政策目標1			多彩な交流によるにぎわいとつながりを創る		
No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
11	地域資源の磨き上げおよび活用	商工文化課	・勝山左義長の調査を継続している。無形民俗文化財の継続していくことについて、どのような課題があるのかの聞き取り調査を実施した。 ・地域資源の磨き上げとして、ジオパークと連携しながら、市内の小中学校からの出前授業を8回、文化財施設を利用した現地案内を6回行い、学校教育のなかで文化財を活用したESD教育に協力した。あわせて日本遺産の未来の語り部として平泉寺小学校の活動に積極的に協力した。 ・日本遺産のガイド養成としては、認定講座基礎編・応用編を開催し、ガイド能力の磨き上げを行った。また、調査研究講演会を行い、一般市民へ日本遺産を知っていただく機会とした。	・勝山左義長では担い手不足等の課題を認識できた。今後、地域住民にどのような支援ができるのか検討していく。また、櫓を組み立てている地区の組立方法に関する調査を行う。 ・小中学校への取り組みは、地球科学との連携を継続し、市域の全小中学校への広がりに取り組みなかったため、改善していく。また、日本遺産の未来の語り部事業が市内に波及していくような取り組みや研修を設けていく。 ・引き続き、ガイドの養成と一般市民への日本遺産の価値を知っていただく機会をつくっていく。	
12	情報発信の強化および交流の活性化	総務課	・各種公式SNSを活用して情報発信を行った。(フォロワー数はR7.3月末現在) 【公式X】 ※主にイベント情報など告知に活用 (フォロワー数 1,579) 【公式facebook】 ※主に学校や市民活動などの紹介に活用 (フォロワー数 1,868) 【公式LINE】 ※主に健診予約、ごみ分別等の情報、防災メニュー全般、イベント情報などの告知に活用 (お友達数 11,211) 【公式Instagram】 ※主に市内の観光地など見どころの紹介に活用 (フォロワー数 2,473) 【公式youtubeチャンネル】 ※主に定例記者会見や行事、出来事などの紹介に活用 ・福井勝山観光ナビなど外部サイトと連携しながら、恐竜関連やゆめおーれなど地域資源を体験できる場の情報発信を行うとともに、関係部署と協力し、地域資源を体験できる場・機会の創出、紹介した。	情報発信を行う媒体が広報紙(月2回)、公式ホームページ、公式SNS(5媒体)と複数になり、情報を届ける相手先が多種多様になっている。本来広報PR活動については、中長期的な方針に基づいて一貫性のある取り組みを行うことで効果が発揮されるものであることから、情報の掲載量、掲載形態が比較的自由度が高く、かつアクセス数が多い公式ホームページを中心とした広報戦略を持ち、各種広報媒体の特徴を踏まえつつ、一貫性のある情報発信を行っていく必要がある。	
13	関係人口の創出および担い手の育成	商工文化課	・建築を専攻する学生を外部人材として全国から受入れ、空き家の改修事業を実施。市民向けのワークショップ等を定期的で開催し、そのアイデアも活かしつつ、施設内にこわーきんぎ施設を整備。【まちの拠点づくり事業実績 市民参加者30名】	関係人口による市民向けとの対話の機会の提供等を継続して行うことにより、外部人材の受入れに対するスキルの向上を図っていく。同時に、コワーキング施設の設置と運営を通じて、福井県立大学恐竜学部 of 学生など関係人口が滞在しやすい環境づくりを地域おこし協力隊と連携しつつ進める。	
14	関係人口との関わりを強化	商工文化課	・地域おこし協力隊1名が平泉寺区の株式会社と連携し、8月に区内においてカフェROKUSAIをオープン。市内での店員採用や区民向けの感謝祭等を通じ関りを強化した。	地域おこし協力隊をはじめとした関係人口と市民が共にまちづくり活動を実践できる場の提供と充実を引き続き図っていく。これにより市民のまちづくり活動に取り組む機運をより高めつつ、関係人口の輪の拡大を図る。	
15	ジオパークを生かした連携を強化	未来創造課	勝山高校の探究学習の成果発表会でアドバイス等を行った。	高校での探究活動として地形・地質遺産や自然・歴史・産業などに関する学びが行われる場合の連携体制について検討する。	

重要業績評価指標

達成

未達成

判断時期未到来

指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
県外市外から外部人材を招聘して実施した地域づくり活動数	目標値	—	3	4	5	6	7		未達成	
	実績値	2	3	0	0					
人のマッチングを行うネットワークの設立数	目標値	—	目標年次の期間までに3 ネットワーク以上						判断時期未到来	
	実績値	—	1	0	0					



政策目標2

やりたいことに挑戦できるまちを創る

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
16	各種団体・グループなどの自主的活動を支援	未来創造課	・クラウドファンディングに必要な手数料とクラウドファンディングで取り組みたいイベントの開催事業に対し補助金を交付する事業を実施した。 【わくわくクラウドファンディング支援事業 申請実績＝2件】 ・若者グループや地域で活動する女性グループなど、市民が主体的に実施する幅広いジャンルの新規まちづくり事業に対し補助金を交付する事業を実施した。また、市政施行70周年記念特別枠を設置し補助金額の拡充を行った。【ちよいチャレ応援事業 申請実績＝34団体（内特別枠申請実績＝19団体）】	より多くの市民に、わくわくクラウドファンディング支援事業やちよいチャレ応援事業を活用してもらえるような取組みを次のとおり実施する。 (1)補助金交付要綱の改正 申請手続き等を見直し、より申請し易い内容とする。また、申請団体からアンケートを収集することにより課題等を洗い出し、より良い補助制度を目指す。 (2)補助金制度の周知	
17	学習環境・機会の充実	未来創造課	・さわやか大学へ委託し、高齢者が学習できる機会を提供した。(会員数155名 33講座 延べ2,066名受講) ・市民総合大学講座を開設した。(前期46講座 延べ2,192人受講、後期43講座 延べ1,282人受講)受講者のニーズに対応できるようオンライン講座を開催した。(勝山、猪野瀬、村岡、遅羽地区で開催) ・多種多様な学習機会の提供と、幅広い世代の学習環境づくりを目指す生涯学習センター「友楽喜」の管理運営を行う(利用者数12,482人) ・豊富な知識と技能を有する市民を「勝山市生涯学習人材バンク」に講師として登録し、市民の自主的な学習活動を支援した。(人材バンク登録者数38名(R7.3.31現在))	・多くの市民が参加できるよう、生涯学習センターだけでなく、まちづくり会館や市民交流センターで講座を開催する。 ・防災や福祉など参加者の関心が高い講座を開催する。 ・歴史講座について、座学中心ではなく現地で見て感じて学ぶ講座を開催する。 ・より幅広い年齢層の参加を促進するため、従来の講座を見直し、多様な講座の開設を実施する。	
18	伝統文化、文化芸術活動の振興と継承を支援	未来創造課	・市民総合文化祭、地区文化祭の委託。市民及び市内文化団体の日頃の芸術文化活動成果を発表する場を提供することで、勝山市の文化芸術振興を推進した。 ・文化や芸術をはじめ教育や国際交流など多様なテーマから構成される複合型イベント「WakuWaku文化フェスタ」を開催した。 ・当市在住の音楽家を中心とする弦楽コンサートを開催し、音楽家の支援を行った。	・左義長まつりのお囃子練習会を左義長まつり実施地区以外の地区に出向いて実施し、市内外に練習生を広く募集する。 ・これまで日程及び会場を分散して実施していた「WakuWaku文化フェスタ」を集約して実施することにより、より多くの人が訪れ、文化芸術に親しむことができる機会を創設する。	
19	高齢者の活動を支援	健康体育課	・勝山市高齢者連合会及び老人クラブの活動に対して補助を行った。補助対象36クラブ 会員数1,169名。 ・地域いきいきサポーター養成講座1回、スキルアップ講座1回実施。地域いきいきボランティアポイント事業 登録81名 ポイント引換者68名。 ・介護予防教室や認知症施策において、ボランティアが活動できる場をつくり、新規の活動者が生きがいをもって取り組めるよう務めた。	・高齢者連合会及び老人クラブの会員数が減少している。引き続き、広報誌での老人クラブ活動に関する周知や、各地区まちづくり会館、コミュニティセンターと連携し活動の支援を行う。 ・地域いきいきボランティアポイント事業の登録者数が減少している。より多様な活動内容を提供したり、活動しやすい仕組みづくりを検討する等、新規の活動者を増やしていくことが必要である。より多くの高齢者が生きがいをもって生活し、心身の健康を維持できるように支援していくことが求められる。	
20	高齢者と若い世代の交流を支援	健康体育課	・9月に開催されるふくい健康長寿祭にてスティックリング競技の世代間交流の部の参加を呼びかけ、高齢者と若い世代の交流の機会の創出を図った。参加チームなし。	・高齢者と若い世代が交流する場や機会が少ない。引き続き健康長寿祭への参加を呼びかけるとともに、高齢者と若い世代が交流する場の実践例について情報収集を行う。	

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
21	障害者の尊厳と多様性が受け入れられる社会の構築	福祉課	・障害者生活支援センターにて、地域活動、就労支援等の内容を含めた相談活動を実施し、関係機関と連携・協議した。【述べ相談件数:2,827件】 ・ワクワク文化フェスタの開会式や市表彰式等で、「手話通訳」や「ライブ字幕モニター」を提供することで、聴覚障害者のみならず耳の聞こえにくい高齢者が参加しやすい環境を整えた。 ・障がいのある方がだれでもいつでも来られる場所として「たまり場カフェ」を提供した。【延べ129名利用】 ・市広報で年2回、障害に関する内容を掲載した。【成年後見制度:10月号、障がい者虐待、障がいに関する相談窓口案内:11月号】 ・奥越地区障害者自立支援協議会において、10/12開催の「すこやかフェスタ」で、協議会の案内、心のバリアフリーや相談窓口の案内パンフレット、ハートフル専用パーキングのチラシ、市内の就労継続支援事業所で取り扱っている商品を配布を行った。 ・9/23の「手話言語の国際デー」や12月の障害者週間に合わせて、恐竜モニュメントのライトアップを実施、また市内のショッピングセンターで勝山市の障害者相談員とともに啓発活動を行い、障害者理解の促進に努めた。 ・障害者等の権利擁護のために有効である成年後見制度の利用について、「ふくい嶺北成年後見センター」が出前講座を開催し、成年後見制度への理解を深めた。 【民生委員児童委員34名聴講】	・勝山市障害者生活支援センターで地域活動、就労支援の相談を受け、関係機関と連携をしていく。障害者施設の人材不足は深刻であり、就労等の支援のための相談員の確保が困難になっている。 ・介護施設で人材不足解消策として実施している「外国人介護人材確保奨励金交付事業」が障害者施設においても適用できないか検討する。 ・障害者施設の人手不足解消策の一つとして、市独自の「医療、介護及び障害福祉人材確保奨励金交付事業」を創設し実績もあるが人手不足解消には至っていない。令和7年度から障害者の就労に限らず、障害者の生活を支援する相談支援専門員を奨励金交付対象者に加え、事業所に周知し、障害福祉分野の職員の支援を行う。	
22	多様性を生かす社会の構築	未来創造課	・令和5年4月から、パートナーシップ宣誓制度をスタートしている。制度のスタートから令和6年度末までの制度の利用者は、まだいない状況。 ・性の多様性に関する職員研修会(8月23日開催、83名参加、講師 仲岡しゅん氏)を開催した。また、公共施設やショッピングセンターに性の多様性に関する啓発パネルを設置した。 ・11月に開催したWakuWaku文化フェスタにおいて、福井大学や市内関係団体と協力し市内在住の外国人の協力をえて、勝山市内に在住する様々な国の文化を体験できる多文化共生ブースを設置し、多数の来場があった。	・パートナーシップ宣誓制度の継続にあたり、市民への制度の周知のほか、県内の制度導入自治体との連携を図っていく。 ・定期的に、市民向け講演会や職員研修会を実施し、パートナーシップ宣誓制度や性の多様性の周知を図る。講演会や研修会への参加者の継続的な確保が課題。 ・市内在住の外国人の人口は、増加傾向にある。(約400人)「やさしい日本語」の活用講座や、異文化体験講座(料理教室や市民総合大学講座)を充実させ、市民との国際交流の促進を図っていく。	
23	創業へのチャレンジを支援	商工文化課	・勝山商工会議所主催で中小企業診断士や社会保険労務士等から、基礎知識やビジネスプランの作成方法などを学ぶ創業塾を6月に5回開催。市の補助金制度についても紹介した。(参加者12名))創業塾以外でも実務や経営に関する知識の向上のため、創業支援を行い、1事業者の創業につなげた。	今年度も商工会議所と連携を図り、創業を考えている者や新たな事業を考えている者を対象に創業塾を開催する。市の助成金についても有効に活用してもらえるよう説明を行う。創業塾に参加できなかった事業者に対しても個別支援を行っていく。	
24	ジオパークに関する情報発信を強化	未来創造課	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの情報についてSNSにて随時発信した。	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークに関する情報発信について、必要に応じて実施する。	

重要業績評価指標



達成

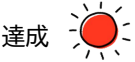
未達成

判断時期未到来

指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
市民アンケートにおける市が主催する「市民総合大学」に参加している人の割合(積極的に参加、ときどき参加の合計)(%)	目標値	—	—	6	—	—	10		—	
	実績値	2.2	—	6.4	—	—				
市民アンケートにおける市が主催する「文化・芸術に関するイベント」に参加している人の割合(積極的に参加、ときどき参加の合計)(%)	目標値	—	—	15	—	—	20		—	
	実績値	8.7	—	15.5	—	—				
認定創業支援等事業計画に基づく創業者数(件)	目標値	目標年次までの期間 毎年3 件以上							達成	
	実績値	3	1	3	3					

政策分野		4つの「守る」子育て・教育								
政策目標1		安心して結婚・出産・子育てができるまち								
No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)				課題と対応策(令和7年度以降)			委員の意見
25	結婚・出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の実施	こども課	・結婚相談を毎週木曜日に実施するとともに、婚活イベントを開催した。【結婚相談件数:129件、婚活イベント実施回数:1回、婚活セミナー4回】 ふく恋マッチングアプリの推進 ・結婚新生活支援事業・U29・U25夫婦支援事業で支援金の支給 ・気がかり児の対策として、保育カウンセラーと一緒に市内各園を巡回訪問し、相談を行った。【年33回】 ・不妊治療費助成を拡大(不妊検査および保険診療による治療を対象に追加、上限額および申請回数上限の撤廃)して実施した。【不妊治療費助成件数:47件 助成額:6,772,175円】 ・子宮頸がん予防ワクチンの積極的受診勧奨を実施し、受診勧奨を控えていた期間に未接種である年代の女子に対しキャッチアップ接種を実施した。 ・乳幼児健診未受診者への電話や通知での受診勧奨を実施した。【乳児健診受診率:97.5~100% 幼児健診受診率:100%】 ・年中児を対象に、保健・福祉・教育分野の連携を強化し、就学前の支援を充実させることを目的に5歳児就学前相談会を実施した。【参加率:100%】				・結婚支援について、国の補助制度等を活用するなかで、民間と連携し、オンライン相談会や若年世代向けのライフデザインセミナー実施など企業と連携し新たな対策の実施を検討する。 ・こども家庭センターを設置し、保健師・看護師・社会福祉士・保育士の各専門職による相談体制を整え、結婚・妊娠・子育ての切れ目ない支援を実施する。 ・不育症治療を受けている方の経済的及び精神的負担の軽減を図るため、治療費を助成する。 ・予防接種の受診勧奨の継続及び乳幼児健診における受診勧奨と受診後の支援の継続。 ・国の指針を受け、5歳児就学前相談会を改め、5歳児健診として実施する。			
26	地域社会における子育て支援の実施	こども課	・子育て支援センターにおいて、保健師と連携しながらの子育て相談を実施。【利用人数:3,682名 相談件数:260件】 ・5歳児を対象として、市民課(生活環境係)と連携して交通安全教室を実施。【年2回】 ・園児の戸外活動時における危険個所の把握。【随時】				子育て支援センターにおいて、「パパとあそぼう」講座を毎月1回(計12回)実施し、父親の子育てに係る支援を図る。			
27	子育て家庭への支援の実施	こども課	・妊娠や出産、育児に関する相談の場として、子育て教室・離乳食教室、育児相談を実施した。 【子育て教室参加率:44.8% 離乳食教室参加率:46.9%、相談件数:79件】 ・要保護児童対策協議会を中心として要保護児童の状況を把握・管理しながら、相談・支援を随時実施。【要対協:代表者会議1回、実務者会議4回、ケース会議32回】 ・児童センター利用申請希望者をすべて受け入れ放課後の居場所を提供(待機児童無し) ・一時預かり(8園)、延長保育事業(9園)、休日保育(1園)の実施により子育ての負担軽減を図った。				・子育て支援センターは地域子育て相談機関として、地域の住民からの子育てに関する相談に応じ、必要な助言を行う。勝山市こども家庭センターと情報共有し、連携しながら必要な支援につなげていく。 ・妊娠や出産、育児に関する相談の場として、子育て教室・離乳食教室、育児相談を継続して実施する。 ・要保護家庭への支援として、統括支援員が中心となり、妊婦やこどもに対する一体的支援を実施しサポートプランを作成する。 ・多様な保育ニーズに対応するため、誰でも通園制度を実施し、子育て家庭への負担軽減を図る。			
28	幼児教育・保育環境の充実	こども課	・幼小接続協議会を実施し、小学校教諭との情報交換など連携を密にした。【年2回】 ・幼児教育推進委員会保育士部会については校区ごとの5歳児交流保育の実施(年3回)や1年生との交流を実施。 ・幼児教育・保育支援事業の一環として実施を予定していた研修会の実施。【年3回】 ・各園で「かつやまっこすくすくビジョン」に基づいた取組みを実施し、保育者相互の連携強化を図った。 ・保育園、認定こども園、児童センターにてCIRが園児や児童とふれあい英語に親しむ機会が増えた。 ・病児保育(1箇所)の他、新たに体調不良児対応型病児保育(1園)を実施し多様な保育ニーズに対応した。				・「かつやまっこすくすくビジョン」に基づいた各園の実践の共有や研修の充実 ・国際交流員との連携強化と国際交流活動の推進 ・幼児教育の質の向上に向けた指導体制の整備をするため各園を訪問し、意見交換や公開保育を実施 ・若手保育者の実践的で継続的な研修の実施			

重要業績評価指標										
指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
市民アンケートにおける「出産支援体制の充実」に満足している人の割合(満足、どちらかといえば満足の合計)(%)	目標値	—	—	25.0	—	—	30		—	
	実績値	18.8	—	21.6	—	—				
市民アンケートにおける「子育て支援の充実」に満足している人の割合(満足、どちらかといえば満足の合計)(%)	目標値	—	—	34.0	—	—	40		—	
	実績値	28.6	—	29.9	—	—				
市民アンケートにおける「若者の出会いの場の創出や結婚相談事業の充実」に満足している人の割合(満足、どちらかといえば満足の合計)(%)	目標値	—	—	10.0	—	—	15		—	
	実績値	4.6	—	6.7	—	—				



未達成



判断時期未到来





政策目標2



新しい時代を生き抜く力を育むまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
29	子どもが自ら学び、考え、実践する学校教育の推進	教育総務課	・タブレットを効果的に活用した授業を積極的に公開し、研究を進めた。また、デジタル教科書を活用した授業にも取り組んだ。 ・英語の研修会を3回開き、教員の授業力向上を図った。言語活動を中心とした授業づくりに取り組み、児童生徒が英語を使う機会の多い授業づくりに努めた。 ・年2回の学校訪問を通して、教員の資質向上に取り組み、学校生活を支援した。	個別最適な学びを推進するために、教育DXによる学習環境の整備や授業支援の強化を実施し、児童生徒がより主体的に学べる環境を整える必要がある。児童生徒が授業で主体的に英語を使う環境を整備するためALTの拡充を図る。また、CIRの学校行事等での活動を強化し、環境をより一層充実させていく。今年度も、年2回の学校訪問を通して、各校の研究等を支援していく。	
30	「ふるさと創生」の担い手を育成するESDの推進	教育総務課	各学校区にある地域の題材を活用し、勝山市他課との連携を図りながら、ふるさとの宝や身の回りの環境について調べたり、学んだりした。ふるさと魅力発信推進事業であるふるさと福井CMコンテストへ参加したり、プレゼンテーション大会に参加したりし、勝山市の魅力について積極的にPRした。	勝山市内を見学したり調べたり地域の方と交流したりして、魅力を発掘・発信し、ふるさとの持続可能性について考え、課題を見つけて解決策を提案したり解決のために実践したりできるよう支援していく。そのために、外部機関や勝山市他課と連携を深めていく。	
31	安全性と快適性、教育の効率性が高い施設・設備を充実	教育総務課	各学校からの要望及び点検で確認された修繕箇所については予算に応じて随時修繕を実施した。また、国庫補助を利用して、体育館高天井照明のLED化を1箇所実施し、快適な学習環境に向けた改修と省エネルギー化に向けた設備の更新を実施した。	各施設の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕及び改修が必要である。令和3年度に策定した学校施設長寿命化計画を令和7年度中の改定を進める。見直しに際しては、今後の人口動向や建物の劣化状況、財政状況を勘案したうえで長期の縮減目標を見据えた検討を行う。	
32	学校の再編統合にあわせた特色ある教育の推進	教育総務課	【勝山市立中学校再編準備委員会による各種施策推進】 「勝山市立中学校再編計画」及び「勝山市立中学校建設基本計画」に従い、同委員会専門部による協議を進め実行 総務部会 校章選定方針の決定と選定作業 校歌選定方針の決定 学校運営部会 新中学校用制服・体操服の選定 R7入学生向け説明会の開催 PTA部会 スクールバス運行方法の検討 PTA組織 同窓会組織のあり方検討 施設整備部会 地下横断歩道工事着工に向けた協議 校舎建設工事着工に向けた協議	【勝山市立中学校建設基本計画の推進】 昨年度に引き続き、再編準備委員会専門部による協議を進める。 総務部会 校章選定 校歌選定 学校運営部会 中高一貫教育推進協議会と学校運営詳細決定 児童・保護者説明会開催 PTA部会 スクールバス運行方法の決定 施設整備部会 学校備品整備にかかわる協議	
33	図書館機能の充実	未来創造課	・市民のニーズに合わせた資料や情報の整備については、市民からのリクエストを受け、県内の他市町等の図書館から図書を借受けたり、図書購入の際の参考とした。また、季節や社会情勢に沿った企画を毎月更新等することにより、資料や情報の整備をして利用者の興味を引くような工夫をした。 ・ブックスタートの実施については、定例の毎月第3木曜日午前中に加え、参加者の都合により定例以外の日時に実施したり、未参加者には、通知を再送する等参加者増加の促進をした。学校図書館整備の支援については、主に図書の新規登録及び廃棄を中心に実施した。 ・はたや記念館ゆめおーれ勝山との連携については、ゆめおーれ&としょかんまつりを実施し、利用促進を図った。まちづくり会館等との連携については、団体としての登録を行い、長期間の貸出しを可能とし、まちづくり会館等の職員が選書する際の参考となるバストリーダーを毎月送付した。	・社会情勢や生活に役立つ題材をテーマとして関連図書の特集や庁内関係課や公的機関と連携し政策や業務に関連した企画を実施する。また、ワンストップで問題解決や生活に役立つ図書のレファレンスにも応える。このような図書館の特性を生かしながら市民のニーズを捉え、資料や情報を整備し、図書館を本に親しむ空間として利用促進する。 ・さらに様々な集会行事を実施して魅力ある図書館となるよう事業の推進に努める。ブックスタート事業・図書館や子育て支援センターでの乳幼児向けの読み聞かせなど対面式でのアプローチにより低年齢から本と触れ合う機会を設けるとともに学校図書館の支援、こども園・学校・まちづくり会館などへの団体貸出・情報共有など関係機関との連携により乳児から高齢者まで切れ目のないサービスを提供する。はたや記念館ゆめおーれ勝山と連携して図書の企画等を実施する。	
34	家庭、地域、学校、行政が連携した市民総ぐるみの青少年健全育成活動の実施	教育総務課	・各地区かつやまっ子応援ネットワークによる健全育成事業(8地区実施) ・各種団体による健全育成事業(4団体実施) ・家族イベント等にて青少年に体験活動実施 ・推進大会、かつやまっ子応援ネットワーク全体会にて7つのルールの普及や市民総ぐるみの活動報告、年2回の広報紙発行による市民への取り組みの周知	青少年健全育成推進事業の普及(区長会にて内容説明、ホームページ・広報紙にて周知) 勝山市7つのルールの普及(各小中学校でのポスター掲示徹底・引き続き推進大会等にて周知・広報紙掲載にて周知する)	



重要業績評価指標

達成  未達成  判断時期未到来 


指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
地域についての意識調査で、児童生徒(小3～中3)が「今住んでいる地域をより住みやすいように変えることができますか」との肯定的回答の割合(%)	目標値	—	60	65	70	75	80		未達成	
	実績値	58.6	50.3	58.8	62.2					
人口100 人当たりの本の貸出冊数(冊) ※基準値は令和2年度実績	目標値	—	目標年次までの期間毎年510 冊以上						未達成	
	実績値	449.8	473.4	482.3	473.8					

政策目標3 教育連携を通して社会で活躍できる人材を育むまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
35	高等教育機関等を誘致	未来創造課	・福井県立大学恐竜学部 令和7年4月開学に向け創設した県立大学新学部準備室は、市内に住むことになる学生の生活環境への支援策、市内の住宅整備などについて福井県、福井県立大学と協議を行った。 ・福井県立大学恐竜学部学生向け賃貸共同住宅建設補助金(令和6年4月施行)の申請が1件あった。完成予定は、令和7年秋ごろで10部屋のアパートになる。 ・福井県立大学恐竜学部生の勝山市内での居住促進を図るために、家賃や交通費、引越し費用等を助成する福井県立大学恐竜学部生生活応援事業補助金(令和7年4月施行)の要綱の制定、制度の周知を図った。	・福井県立大学恐竜学部学生向け賃貸共同住宅建設補助金(令和6年4月施行)について事業者への周知を図るとともに、市内のアパートの空き状況の把握を行う。 ・福井県立大学恐竜学部生生活応援事業補助金について、福井県立大学恐竜学部生への周知を行う。(入学式、オープンキャンパスなどのタイミングで) ・市内に在住している福井県立大学恐竜学部生は3名いる。彼らに勝山市での生活の現状や困りごとなどについて聞き取り調査を行い、今後の学生支援策の企画立案の参考にする。	
36	効果的な中高連携教育の推進	教育総務課	【勝山市中高一貫教育推進協議会の設置】 11月末に県教委、市教委、勝山高校、市内三中学校による同協議会を設置。以下の6部会を設置し担当教員 による協議を開始 ・教育課程部会: 学校行事 日課表等の調整 ・進路支援部会: 中高接続(入試)と連携プログラムの検討 キャリア教育カリキュラム検討 ・生徒支援部会 : 生活ルール 生徒会 ・英語部会 : 6年間を見通した英語カリキュラムの検討 ・数学部会 : 6年間を見通した数学カリキュラムの検討 ・探究部会 : 6年間を見通した探究カリキュラムの検討	【連携型中高一貫教育の在り方について具体案の検討】 ・R10年度の勝山高校入試制度の確定と保護者説明 ・R10年度勝山高校入試以降を見据えた、R7～R9年度の中学校の連携生徒のあり方 ・中高一貫教育推進協議会による具体的な学校運営方法の確定 ・中高教職員交流促進による制度の理解深化と意識改革 ・市民への周知	
37	県立大学と市内小中高校との連携体制の構築	教育総務課	勝山高校が次年度以降の地域みらい留学開始を見据え特色選抜項目にジオサイエンスを設置。地域みらい留学プラットホーム参加に向け予算措置。	・勝山高校が県大恐竜学部との連携推進および地域みらい留学生徒募集予定 ・地域みらい留学生として来勝する生徒に対する地域支援体制 ・探究学習の推進とジオサイエンス枠への志望呼びかけ	

重要業績評価指標

達成  未達成  判断時期未到来 

指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
1校以上の高等教育機関を誘致(校)	目標値	—	目標年次までの期間に1 校以上						判断時期未到来	
	実績値	0	0	0	0					

政策分野		4つの「守る」 福祉・健康			
政策目標1		いくつになっても元気で暮らせるまち			
No	施策名	担当課	内容・実績（令和6年度）	課題と対応策（令和7年度以降）	委員の意見
38	良い生活習慣の実践に向けた普及啓発の実施	健康体育課	・食生活改善推進員による減塩の普及啓発活動として、実習や試食展示を実施(27回1,268人参加) ・保健推進員による健康づくり教室を実施(11回197人参加) ・疾病予防・健康づくりを目的に健康ポイント事業を実施し218人参加。運動の機会を提供する内容の運動教室(12回136人参加)、水中運動教室は9教室(1教室8回)、延べ984人参加。 ・個人にあった運動指導を受けられる個別プログラム運動教室を実施。20回、計51人参加。 ・健診受診率向上の取組みとして、個別の郵送や電話等による受診勧奨、再勧奨を実施。特定健診では目に留まりやすい工夫として圧着用紙により通知を行い、受診者数の増加につながった。 ・歯科保健において、子どもの虫歯予防講座1回、健康講座(歯と口の健康について)1回実施。無料歯科健診を、40.41.50.51.60.61歳の市民及び国民健康保険加入の45.55.60.65歳の市民を対象に実施した(受診率7.0%)。 ・飲酒に関しては、教室や相談などの機会をとらえて啓発を行った。 ・禁煙教育として、禁煙外来の紹介や妊婦及び同居家族に対して禁煙指導を実施。 ・無料ストレス相談を実施(12回延11件相談)。相談先の案内を記載した「こころのお守り」を配布。	・健康教室への参加者の固定化やがん検診受診率の停滞が課題となっている。 ・生活習慣病の発症予防や重症化予防のために働き世代の健康管理や運動習慣の実態を把握し、仕事や家庭生活の中に無理なく健康習慣を取り入れ、生活習慣の改善に取り組めるような働きかけを商工会議所や地区活動組織などと協力して実施する。	
39	地域の医療体制を維持	健康体育課	・個別健診の案内通知や機会をとらえてかかりつけ医を推進した。 ・医療人材確保事業新規申請者1名、交付者数4名。 ・妊産婦の支援として、妊産婦医療費の助成(申請延件数94件)、妊産婦バス無料券交付(3件)、福井勝山総合病院での妊婦健診利用促進のため、にこにこ妊婦奨励金事業(利用者47件)を実施。 ・休日の診療を行う在宅当番医制事業を勝山市医師会に委託し実施(利用者746人)。福井勝山総合病院との連携として随時情報交換を行った。広報JCHOコラム掲載6回実施。	・令和5年度の住民意識調査において、かかりつけ医をもつ市民が減少している。かかりつけ医についての普及啓発と合わせて地元の医療機関で健診や予防接種、日常の診療等で健康管理をすることを推進していく。 ・市内産婦人科診療体制維持のため、福井勝山総合病院での妊産婦健診受診及び女性の健康管理の推進を継続。 ・地域の医療体制維持のため、今後も勝山市医師会や福井勝山総合病院と連携していく必要がある。	
40	感染症予防対策を強化	健康体育課	・小児及び高齢者の定期予防接種の実施、風しん抗体検査および風しん予防接種、子宮頸がん予防ワクチンのキャッチアップ接種を実施した。 ・帯状疱疹の発症・重症化予防として、50歳以上の市民に帯状疱疹予防接種費用の助成を実施した(申請者数262人)。 ・がん検診に合わせ結核健診を実施した。 ・災害対応として、住宅浸水地へ消毒液を配布した。随時広報において、感染症予防対策等の周知を行った。 ・熱中症対策として市内施設等とクーリングシェルター設置のための協定を締結(34箇所)	今後も予防接種をはじめ、感染症予防対策について情報提供等、普及啓発を強化する必要がある。	
41	効果的な保健事業による健康づくり活動を支援	健康体育課	・保健推進員及び食生活改善推進員の育成として地域活動の支援を行った。推進員や協定企業等と連携し健康づくりイベントを実施した。	地域における健康づくり活動の担い手の確保が課題となっている。健康づくり活動の必要性について、地域と協力し働きかける必要がある。	

重要業績評価指標										
指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
市民アンケートにおける「健康ポイントラリー」に参加している人の割合(積極的に参加、ときどき参加の合計)(%)	目標値	—	—	7.0	—	—	10.0		—	
	実績値	3.9	—	6.3	—	—				
市民アンケートにおける「健康ポイントラリー以外」の市が主催する健康づくり教室等に参加している人の割合(積極的に参加、ときどき参加の合計)(%)	目標値	—	—	11.0	—	—	15.0		—	
	実績値	7.9	—	10.8	—	—				

達成 

未達成 




判断時期未到来 





政策目標2

スポーツを楽しむ健康な心身を育むまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
42	誰もが楽しく取り組める生涯スポーツの普及	健康体育課	・各地区やPTA行事などで開催されたニューススポーツ体験会、合計7件にスポーツ推進委員を指導者として派遣した。 ・高齢者を中心に体力測定を行い、40人が参加。測定結果などから生涯スポーツの呼びかけを行った。	スポーツを始めるきっかけとなりやすい、ニューススポーツ体験会の開催回数が増えるように、地区等に呼びかけを強化する。	
43	気軽に参加できるスポーツ教室および大会の実施	健康体育課	・勝山恐竜クロカンマラソンは、26部門で実施し、マラソン1,567名、ウォーキング249名、合計1,816名(うち、市民444名)の参加があった。 ・泳ぎが上手になる水泳教室は、3日間開催し、15人の参加があった。カヌー体験教室は、2日間開催し23人の参加があった。 ・多くの市民が気軽に参加できるスポーツライフ事業として、ニューススポーツ祭inかっちゃまのほか、伝統的な市内駅伝競走大会、青少年バドミントン大会、青少年卓球大会、少年少女水泳記録会、少年少女スキー大会を開催した。	・勝山恐竜クロカンマラソンの参加人数が増えるように、魅力を高めるとともにPRを強化する。 ・泳ぎが上手になる水泳教室及びカヌー体験教室を小学生を対象に実施しているが、恒例行事として工夫し、参加者の増加を図る。 ・スポーツライフ事業を確実に実施する。	
44	スポーツへの興味関心を高めるための取り組みを実施	健康体育課	・市民体育大会として、地区対抗の部11競技中10競技実施、普及の部13競技中12競技を実施し、のべ1,470名の参加があった。 ・競技力の向上を図るため、市スポーツ協会を通して強化事業を実施し、6競技、282名が参加した。県民スポーツ祭市町対抗の部に319名が出場。全国大会・国際大会に163名が出場し激励した。 ・市スポーツ協会に加盟している競技団体、地区体育協会、小学校体育連盟、中学校体育連盟、スポーツ少年団の活動を支援した。	・市民体育大会を実施し、各種スポーツ競技の普及と競技力向上を図る。 ・さらに、強化事業の競技種目を拡大し、上位を目指している選手の競技力向上を強化し、県民スポーツ祭への出場を増やすとともに、全国大会、国際大会への出場、成績の向上につなげる。 ・さらに、市スポーツ協会に加盟している競技団体、地区体育協会の活動支援を強化する。	
45	市民がスポーツを気軽に親しめる環境の充実	健康体育課	・各体育施設の管理を適正に行い生涯スポーツができる環境整理をした。 ・ジオアリーナ74,784人、温水プール44,779人、B&G海洋センター6,850人、林業者健康トレーニングセンター3,784人の利用があった。	体育施設を適正に維持管理し、生涯スポーツができる環境を整備し、利用者増を図る。	

重要業績評価指標

達成未達成判断時期未到来

指標名	項目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
高齢者体力測定におけるB 判定以上の人の割合	目標値	—	54.0	55.0	56.0	57.0	58.0		未達成	
	実績値	53.5	37.5	44.7	47.5					
市民アンケートにおける勝山市体育館「ジオアリーナ」を月1回以上使用している人の割合(週1回以上、月2～3回程度、月1回程度の合計)(%)	目標値	—	—	15.0	—	—	20.0		—	
	実績値	10.9	—	10.1	—	—				
市民アンケートにおけるジオアリーナ以外の体育館を月1回以上使用している人の割合(週1回以上、月2～3回程度、月1回程度の合計)(%)	目標値	—	—	10.0	—	—	15.0		—	
	実績値	5.4	—	4.1	—	—				
市民アンケートにおける市営温水プールを月1回以上使用している人の割合(週1回以上、月2～3回程度、月1回程度の合計)(%)	目標値	—	—	6.0	—	—	10.0		—	
	実績値	3.1	—	2.2	—	—				



政策目標3

住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
46	障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援	福祉課	・奥越地区障害者自立支援協議会として、相談支援体制強化のための研修会を実施し、その重要性について認識を深めた。 ・勝山市障害者生活支援センターにて、障害のある就労希望者やニートなどに対し、ハローワークや障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターなどの関係機関の紹介や福祉就労の利用等、就労に向けた支援を行った。 ・10/12開催のすこやかフェスタにて、障がいのある方と健常者とのスポーツ交流会(ポッチャとモルック)を行った。【参加者:延べ140名 スタッフとして勝山市スポーツ指導員5名協力】 ・県内の知的障害者及び発達障害者の作品展「10回アール・ブリュット展」を、福祉健康センターすこやかにて開催した。【令和7年2月20日～令和7年2月27日】	・国の施策である「地域生活支援拠点の整備」と「基幹相談支援センターの設置」は、令和8年度末までに、奥越圏域としての整備を目指す。令和7年度は、市内の障害者支援施設に、「地域生活支援拠点の整備」の説明を行い、実施事業所を募る。また、基幹相談支援センターについても、大野市と継続して協議を進める。 ・勝山市障害者生活支援センターで地域活動、就労支援の相談をうけ、関係機関と連携をする必要はあるが、障害者施設の人手不足は深刻であり、就労等の障害者支援のための相談員の確保が困難になってきている。	
47	高齢者や障害者など様々な人の暮らしを支援	健康体育課	・介護予防教室を実施。いきいきサロン(23回)、はつらつ教室(93回)、出前介護予防(認知症、フレイル等)教室(17回) ・地区サロン等でフレイルチェック等教室の実施(4回)。 ・遠隔指導型フレイル予防事業をジオアリーナおよび7地区のまちづくり会館にて実施(計92名参加)。 ・健康長寿！一番体操教室(5地区)の継続実施。 ・高齢者総合相談の実施(相談実績975件) 認知症、権利擁護等困難事例への相談対応を実施。認知症総合相談窓口の周知等(認知症ケアパスの配布1700部) ・認知症cafeを実施(3会場・25回)。同じような悩みをもつ者同士が意見交換や交流できる場として実施。 ・地域における認知症の正しい理解の普及のため、認知症フェア(1回、約220人)、認知症サポーター養成講座(7回、144人受講)、認知症サポーターステップアップ講座(1回13人受講)を実施。 ・見守りが必要な方への支援として、勝山市見守り事前登録(登録者累計71件、登録者45件)、勝山市見守り事業(登録者累計36件、登録者31件)を実施。	・高齢者が健康を維持して暮らすことができるよう、閉じこもりや認知症、体力低下の予防に繋げていくため、介護予防、認知症予防、フレイル予防等の教室を継続していく。遠隔指導型フレイル予防事業において、参加者の継続支援や、参加者数が少ない地区への声掛けなどにより参加者の増加を図る。 ・高齢者の総合相談窓口、認知症の総合相談窓口である地域包括支援センターを周知する必要がある。さらに、高齢者の相談内容が複雑・多様化しているため、各関係機関との連携を強化し、適切な相談対応及び支援を行う。 ・認知症の正しい理解を普及するため、認知症cafeや認知症フェア、認知症サポーター養成講座を継続していく。	
48	高齢者介護体制の充実	健康体育課	・民生委員からの相談対応(27件) ・地域見守り活動協定事業所との見守り連携(4件)、見守り協定事業所(29事業所1協会) ・介護人材確保奨励金交付事業(申請者数2件、交付者数2件) ・介護保険施設と人材確保対策に関する意見交換会を実施。 ・在宅医療・介護の連携の課題の抽出と対応策の検討として、居宅介護支援事業所代表者会議(4回)、事例相談会・ミニ講座(4回)、地域ケア個別会議(4回)を実施。在宅医療と介護を一体的に提供できるよう医療機関と介護事業所等の連携として多職種連携研修会(2回)を実施。 ・福井県版エンディングノート「つぐみ」の配布(39冊)や、ACP(人生会議)に関する出前講座(4回)を実施。 ・市内医療機関でのかかりつけ医に関するチラシを作成し、市外総合病院に配布。	・後期高齢者、一人暮らし等の高齢者世帯が増加している。ご近所や民生委員、地域の事業所等、地域での見守りの視点や連携を継続していく。 ・介護の人材不足は深刻な問題となっており、引き続き、介護保険施設等と意見交換を行いながら人材確保対策の取り組みを検討していく。 ・各種会議や多職種連携研修会を継続して行うことにより、医療と介護の連携を強化していく。また、市内でかかりつけ医を持つことを推進していくため、関係機関が集まる場などで医療のかかり方について話し合い、市民にむけた講座を行い普及啓発を図る。 ・エンディングノートの配布やACPに関する出前講座を継続して実施し、市民への普及啓発を図る。	
49	公的賃貸住宅の適切な供給	営繕課	・住宅に困窮する低額所得者に対して、低廉な家賃の市営住宅への入居を実施。 【令和6年度市営住宅入居戸数：7戸】 ・市内に居住し又は居住しようとする者で住宅に困窮している者に対して、定住支援を目的とした定住促進住宅への入居を実施。 【令和6年度定住促進住宅入居戸数：8戸】	市内で住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸し、市民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とした市営住宅9団地(121戸)の維持管理及び、市内に居住し又は居住しようとする者で住宅に困窮している者に対して、定住支援を図ることを目的とした定住促進住宅79戸の維持管理を行う。 ○ 原状回復の修繕(畳や襖の張替え、床・壁・天井の修復、水周り設備の取替等)を実施 ○ 市営住宅の住環境の改善に向けた設備等の更新・追加	

重要業績評価指標

達成

未達成

判断時期未到来

指標名	項目	令和2年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
要介護認定率	目標値	—	18.0以下	18.0以下	18.0以下	18.0以下	18.0以下		未達成	
	実績値	17.8	17.5	17.9	18.4					
市民アンケートにおける「障害者が安心して暮らせる社会の実現」に満足している人の割合(満足、どちらかといえば満足の合計)(%)	目標値	—	—	21.0	—	—	25.0		—	
	実績値	17.0	—	13.9	—	—				

政策分野		4つの「守る」 産業・経済			
政策目標1		多くの観光客が訪れる豊かで活力あるまち			
No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
50	勝山の魅力(歴史・民俗・自然等)を感じる観光プログラムの開発	商工文化課	・日本遺産「福井・勝山石がたり」を題材に、国史跡白山平泉寺旧境内や旧城下町での体験プログラムを構築し、それを受けて日本遺産フェスティバルを11月に開催した。 ・まほろば・ゆめおーれでの企画展、勝山城博物館との共催展を計6回開催し、勝山の魅力を市内外に発信した。これらの展示を開催するにあたり、調査・研究を実施し、その成果を講演会等でも発表した(計5回)。 ・企画展・講演会・調査・研究の成果を冊子にまとめて公表した。	・日本遺産体験プログラムが継続的に実施できるよう、引き続き、事業者への助言を行っていく。 ・企画展・講演会・調査・研究の成果を引き続き冊子にまとめて公表していく。	
51	体験型・着地型観光プログラムの開発	商工文化課	・市内への宿泊事業者誘致に向け、複数の事業者との交渉を継続して実施した。 ・市の観光振興における新たな指針となる「新勝山市観光振興ビジョン」を策定するとともに、地域DMOである勝山市観光まちづくり株式会社が事務局として地域の観光関連事業者と組織した「勝山観光戦略会議」に参画し、今後の観光対策に向けた対策等を検討した。	・市内への宿泊事業者誘致に向け、複数の事業者との交渉を引き続き粘り強く実施する。 ・勝山観光戦略会議について、観光関連事業者の意見交換の場ではなく、事業者が連携した取組みを検討・実施する中心的な組織となるよう事務局であるまちづくり会社の支援を行う。	
52	閑散期の誘客拡大	商工文化課	恐竜博物館休館時の閑散期対策として、市内観光関連事業者を集め実施した「福井県立恐竜博物館休館対策検討会」において出た意見を参考に、旅行会社への補助金の創設やかつやま恐竜の森敷地内の子ども向けアトラクションの実施など誘客施策を講じた。	勝山市観光まちづくり株式会社と協力しながら、梅雨の時期や11・12月の閑散期にも実施できるような体験プログラムの開発・実施を行う。	
53	観光営業の強化	商工文化課	市及び勝山市観光まちづくり(株)では観光営業事業として次の事業を実施した。 ・「奥越前観光連盟」としてツーリズムEXPOに参加し、奥越エリアの誘客促進を図るため、観光営業を行った。 ・中京圏、首都圏の商談会に参加し、比較的認知度の低い平泉寺や越前大仏を中心に観光営業を行った。【商談会等参加実績＝2回】 ・大阪・関西万博や銀座の"ふくい食の國291"で勝山市のPRを実施。(DMO) ・平泉寺や織物工場などの"ツアー"、花月楼での左義長体験や越前大仏雲海特別拝観などの"体験商品"の開発。(DMO) ・商談会へ参加し、観光地や観光商品の売り込みを実施。(R6:21件)(DMO)	・平泉寺白山神社、かつやま恐竜の森の再整備は、旅行会社の関心度が高いため、これらをフックとしたPR活動を行う。 ・北陸新幹線福井敦賀延伸や中部縦貫自動車道県内全線開通といった高速交通網の整備が影響するエリア(首都圏、中京圏)を中心に、観光営業を引き続き行う。	
54	インバウンドの推進	商工文化課	市及び勝山市観光まちづくり(株)では次の事業を実施した。 「越前加賀インバウンド推進機構」を中心に、インバウンド観光推進事業を実施。令和6年度については、ゆめおーれ勝山にてインバウンド向けの高付加価値コンテンツを造成したり、やビジネス外国語講座などの受け入れ態勢整備を行った。 2022年より訪日外国人向け情報発信サイト「MATCHA」と契約し、継続的に観光情報を発信している。(DMO)	・「越前加賀インバウンド推進機構」において、海外で行われる商談会に参加し、勝山市の観光コンテンツの魅力やインバウンド向け商品の発信を行っていく。 ・勝山市観光まちづくり(株)と連携しながら、インバウンド向けの体験等のコンテンツの開発・拡充を行っていく。	

重要業績評価指標										
指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
市内宿泊施設における宿泊客数の増加率(基準年度比)(%)	目標値	—	10.0	20.0	30.0	40.0	50.0		達成	
	実績値	63,818人	48.5%	56.0%	101.7%					
閑散期(6月、12月、3月)の観光入込客の増加率(基準年度比)(%)	目標値	—	3.0	6.0	9.0	12.0	15.0		達成	
	実績値	293,700人	17.7%	-11.4%	75.4%					
観光入込客の増加率(基準年度比)(%)	目標値	—	5.0	10.0	15.0	20.0	25.0		達成	
	実績値	1,390,072人	48.7%	59.1%	112.0%					

政策目標2

多様な働き方を選べるまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
55	幅広い業種の企業を誘致	商工文化課	・恐竜渓谷かつやまエリアへの事業者の進出に向け、宿泊業・小売業など複数の事業継続的な交渉を行った。進出件数は0件だが、継続して交渉を行っている。	恐竜渓谷かつやまエリアについて、地域経済振興会議委員の意見等を聞きながら、条件の緩和などを検討し、企業誘致を進める。	
56	サテライトオフィスなどを誘致	商工文化課	・地域経済振興会議を開催し、都市部の企業ニーズについて情報収集を図ると共に、有識者を地方創生プロモーターに委嘱し、サテライトオフィス等の企業誘致に向けての意見交換を行った。【地域経済振興会議の開催＝5回】プロモーターの支援を受けつつ、道の駅隣接地での事業展開が決定。(1社) ・市内でのコワーキングスペース設置に向け、専門家を交えながら機能や運営スキームに係る助言を行い、コワーキングスペースの整備が完了した。	・地域経済振興会議での意見等を踏まえ、新たなコワーキングスペースやコミュニティスペースの整備に向け、市有施設を活用した整備及び民間による空き家等を活用した整備に対する支援など、官民両面での検討・支援を行う。 ・地方創生プロモーターの紹介を積極的に受けつつ、企業誘致活動に取り組む。	
57	企業誘致と合わせたU・Iターン者の増	商工文化課	・U・Iターン者に対して家賃や引越し費用等の初期費用の負担軽減に向け、奨励金を交付した。 【U・Iターン奨励金18件790,000円 U・Iターン就職奨励金17件2,220,000円】 ・2拠点従事者等の受入れに興味のある企業対し、都市部で活躍する人材を講師とした受入れに対する課題解決などのサポートを行った。【勝山づくり人創造推進事業開催実績＝参加企業2社】 ・外部人材の受入れに備えた企業や市民向けのハブ人材育成やヒアリング力・思考力の向上を目的とした研修会を開催した。【勝山づくり人創造推進事業開催実績 市民参加者150名】	勝山づくり人創造推進事業や地域おこし協力隊のネットワークを活用しながら、引き続き関係人口の創出を図ることで、移住を促進していく。	
58	U・Iターン者の住まいや仕事探しに向けた住環境の支援	商工文化課	定住化促進事業補助金として、40歳以下又は転入者に対して新築住宅取得、中古住宅取得及びリフォームに要する経費の一部を補助した。 【令和5年度補助金実績：23件17,294,000円】	商工文化課で実施している移住・定住支援策と連携しながらターゲットを明確にし、定住化促進事業補助金の周知、活用を促進していく。	

重要業績評価指標

達成

未達成

判断時期未到来

指標名	項目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
既存公共施設を活用した民間企業の進出数(件)	目標値	—	目標年次までの期間に 3 件以上						判断時期未到来	
	実績値	0	1	0	0					
民間資本によるサテライトオフィス等の整備数(件)	目標値	—	目標年次までの期間に 1 件以上						判断時期未到来	
	実績値	0	0	0	0					
市の補助制度を活用したU・Iターン者数(増加分)(回)	目標値	—	1	2	3	4	5		未達成	
	実績値	0	10	-5	-4					



政策目標3

事業者の活力あふれるまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
59	デジタル技術の活用を支援	商工文化課	勝山商工会議所でデジタル技術導入のためのセミナーの開催および県補助金の案内を行った。【DXセミナー 参加者10人】	DXセミナーは難しいという意見を受け、より身近なSNS活用から始めるセミナーの開催および県補助金の案内を行う。	
60	意欲ある商工業者を支援	商工文化課	市内の空き地や空き家を活用した出店に対し店舗に対する工事費や賃借料の一部補助を実施。女性、または申請時に39歳以下の場合補助金額の上乗せを実施。 【上限:工事費100万円→120万、賃借料月額5万円→6万円】 【実績:工事費 3件、2,900,000円 賃借料 件2,019,000円】 ・勝山商工会議所主催で中小企業診断士や社会保険労務士等から、基礎知識やビジネスプランの作成方法などを学ぶ創業塾を6月に5回開催。市の補助金制度についても紹介した。(参加者12名)創業塾以外でも商工会議所と連携して創業支援を行い、1事業者の創業につなげた。 ・新規創業や事業拡大に意欲のある事業者に対し、市が市内金融機関と行っている融資制度を提案した。	・引き続き、まちなかで空き店舗等を活用した出店を促進するため、工事費や賃借料の補助を行う。 ・勝山商工会議所と連携し、専門家から基礎知識やビジネスプランの作成方法などを学ぶ創業塾を5回開催する。市の補助金制度についても周知する。 商工会議所と連携し、創業塾に参加できない事業者に対しても、個別の創業支援を実施していく。	
61	既存商工業者への支援	商工文化課	・観光客向けのお土産等の商品開発に対し事業者との面談を行った。	観光客向けのお土産等の商品開発に対し意欲のある事業者に対し、アドバイザーを派遣し、商品開発から販路拡大まで支援を行う。	
62	市内企業と一体となった労働者確保対策の実施	商工文化課	・市内企業と意見交換を実施し、現状把握を行った。 ・市内事業所と連携し、インターンシップを実施。3名が参加し、市内企業就職につなげた。 ・市内繊維会社3社と連携し、見学・体験ツアー「オープンファクトリー」を実施。(県内大学、専門学校の学生15名参加) ・商工会議所と共催で、産業フェアを実施。、市内企業の高い技術力と製品等を紹介する展示や体験コーナーを設置。また、市内企業に関心を持ち、将来の就職に繋げることを目的に、中学生に向けて企業紹介を実施。(市内中学1年生157名参加)	・市内企業と連携をし、インターンシップを実施。市内事業所に協力を求め、受け入れ事業所の拡充を図る。 ・市内繊維会社と連携し、オープンファクトリーを実施する。昨年の学生へのアンケート結果などから繊維会社の魅力を十分に伝えられなかった事が課題。更に繊維会社との連携を図り、魅力を十分伝え、就職に繋げていく。 ・商工会議所と共催で、産業フェアを実施し、市内企業の魅力を発信する。中学生への企業紹介では、参加企業の拡充を図り、市内企業の魅力を十分伝えていく。 ・県内の学生対象にWEB就職説明会を実施する。	
63	飲食事業者のニーズに応じた支援の実施	商工文化課	市内の空き地や空き家を活用した出店に対し店舗に対する工事費や賃借料の一部補助を実施。女性、または申請時に39歳以下の場合補助金額の上乗せを実施。 【上限:工事費100万円→120万、賃借料月額5万円→6万円】 【実績:工事費 3件、2,900,000円 賃借料 件2,019,000円】	継続して市内の空き地や空き家を活用した出店に対し店舗に対する工事費や賃借料の一部補助を実施することに加え、事業者の声を聞きつつ、新たな補助制度の創設を検討する。	

重要業績評価指標

指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
市の採用支援施策に参画した市内企業の採用者数(増加分)	目標値	—	1	1	2	2	3		達成	
	実績値	—	10	12	4					
空き店舗を活用した創業者数(第二創業を含む)(件)	目標値	—	目標年次までの期間に毎年 3 件以上						達成	
	実績値	3	0	3	3					
補助制度を活用した商品開発件数(件)	目標値	—	目標年次までの期間に毎年 1 件以上						未達成	
	実績値	—	0	1	0					

達成 

未達成 

判断時期未到来 

政策目標4








活力ある農林水産業が続くまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
64	農業の担い手、新規就農者の確保・育成・支援	農林課	・農業団体や関係機関と連携し地域特産物の振興を促進 ○担い手育成部会:担い手部会(5/27、11/25)、担い手研修会(3/7) ○良食味米部会:いちほまれ 栽培環境調査、さかほまれ 作見会 ○農村イノベーション部会:北陸米粉サロン(オンライン)、SNS研修、食品衛生研修 ○勝山市園芸作物等出荷販売奨励事業補助金1件:326千円 ・農業者の機械および施設の整備等を支援 ○未来に繋ぐふくいの農業応援事業補助金2件:977千円 ・中山間地域などの条件不利農地の営農の継続を支援 ○中山間総合対策支援事業補助金(営農省力化支援事業)2件:6,089千円、○中山間総合対策支援事業補助金(担い手対策支援事業)4件:9,279千円、畦畔用防草シート普及推進事業補助金31件:1,110千円 ・高収益作物の導入や作物の付加価値向上に対する取り組みを支援 ○生分解性マルチ普及推進事業補助金7件:338千円 ・新たな農業の担い手確保・育成を支援 ○新規就農者育成総合対策事業補助金(経営開始事業)1件:1,500千円 ・米の消費拡大に向けて食育等を推進 ○第4次勝山市食育推進計画の推進	○担い手、後継者の不足 大規模農家の規模拡大、意欲ある農家の大規模化、集落組織の継続・発展、地域での広域連携化、新規就農者の育成・定着、担い手情報の整理。 ○生産者米価の低迷 米価変動に強い営農体制の構築、勝山産米の魅力発信 ○サトイモの産地維持 調整施設の整備、中核生産者の育成する。 ○補助事業の周知 要望事項を受付け、年度当初に担い手、新規就農者を対象とした補助事業説明会を実施する。 ○青果市場の出荷量の確保 勝山市の気候に適した新たな地域振興作物の検討、特色ある農産物の栽培支援策を新設する。	
65	担い手への農地の集積・集約化に向けた支援の充実	農林課	・地域農業確立支援事業(地域集積協力金)を活用 ○対象集落1地区 補助金 33千円	○中山間地域での担い手の農地集積が進まない 農地の集積・集約化の促進に向けて農地中間管理機構の活用をPR。農地中間管理機構、農業会議、農業委員会、JA、農林総合事務所、県等の関係機関が連携して推進する。	
66	農業用施設の長寿命化	農林課	・勝山大用水の長寿命化工事を実施 ○個別施設管理計画に基づき、長寿命化工事を実施(1件:5,984千円) ・各地区管理となっている農業用施設の改修を実施 ○県単土地改良事業補助金を活用し、各地区管理の農業用施設改修工事を実施(5件:13,000千円)	○農業用施設の改修 県営・県単・市単土地改良事業を活用して引き続き計画的に長寿命化工事を実施するとともに、多面的機能支払交付金の長寿命化工事についても計画的に実施するよう農業公社と連携して推進する。	
67	人材育成と広域的な取り組みによる鳥獣害対策の推進	農林課	・捕獲隊や集落のリーダーの人材育成を支援 ○捕獲隊員である猟友会会員の技術向上を図るための研修会への補助の実施(年間285千円) ○集落で農業を営んでいる方や野生動物対応を実施している方を対象に、サルをはじめとした集落の周辺に出没した野生動物を追い払うための花火(煙火)を扱うための講習会を実施 ・近隣市町、県との連携による広域的な取り組みを実施 ○市境を超えて行動するサルに対して、県・関係市町・専門家で構成される「サルユニット会議」を組織し、サルの群れに対する方針や対処方法、役割分担を協議した。	・捕獲隊や集落のリーダーの人材育成を継続して支援 ○捕獲隊員である猟友会会員の技術向上を図るための研修会への補助の実施(年間285千円) ○集落で農業を営んでいる方や野生動物対応を実施している方を対象に、サルをはじめとした集落の周辺に出没した野生動物を追い払うための花火(煙火)を扱うための講習会や特に農作物被害が大金地区に出向き集落点検を実施 ○サルについては、集落を越えて被害が発生するため、集落間で連携し追払うための資機材の購入に係る費用の補助を実施(1集落300千円) ・近隣市町、県との連携による広域的な取り組みを実施 ○市境を超えて行動するサルに対して、「サルユニット会議」にて、方針を決定しそれに基づき、生息範囲が重複する群れの全頭捕獲を実施し、生息管理する。	
68	意欲のある森林経営体への集約化の推進	農林課	・境界が不明確で管理されていない森林の境界調査を推進 ○勝山市森林整備地域活動支援交付金 森林境界の明確化(GPS測量)50ha:2,250千円、○森林経営計画作成・森林境界の明確化に向けた条件整備25ha:1,000千円 ・意欲のある森林経営体へ森林管理の集約化を推進 ○森林経営管理意向調査等業務 2,548千円 ・林道管理団体等への保全支援、森林経営体への高性能機械の購入支援、木材の利用推進等を支援 ○生産森林組合事業補助金4件:240千円	・境界調査を行う地域は、当初の計画とおり進捗しており、今後も計画に基づいて実施する予定。 ・森林を森林経営体等に管理を希望している所有者はいるが、所在地がバラバラで集約できる状態ではない。今後も意向調査を順次進めていき、集約可能な森林が確認できた際には、意欲ある森林経営体等に紹介していく。 ・令和4年度は高性能林業機械の購入が無かったが、今後購入された際には補助金交付し事業者を支援する。 ・毎年、一定程度の間伐材が発生しており、引き続きは木質バイオマス発電所への搬出に対し支援する。	

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
69	次世代の林業の担い手確保	農林課	・地域に根付いた次世代の林業従事者の育成を支援 ○森林組合作業員退職共済事業補助金 507千円 ・森林・林業への理解醸成を深めるため森林と親しみやすい空間を確保 ○森林公園維持管理 ・災害に強く良好な山村景観を次世代に残すための森林保全を支援 ○森林景観再生業務 640千円	・森林組合作業員退職共済事業補助や森林公園の維持管理に必要な事業は継続的に実施できており、効果は出ていることから引き続き事業を実施していく ・森林景観再生事業については、県の補助事業が無くなり、市単独事業となっている。現在、片瀬区のみが継続的に事業を行っており、今後も事業の必要性を整理し、事業を進めていく	
70	鮎を中心とした水産振興の推進	農林課	・遊漁者の増加と鮎釣りの楽しさ、「九頭竜川勝山あゆ」を知ってもらうため、小学4年生以上を対象に鮎の友釣り体験を実施し、59名が参加 ・勝山市漁協が鮎の安定的確保のために実施している稚鮎放流の取り組みに対し、経費の一部助成を実施 ・勝山市漁協等で構成される活動組織が実施する河川清掃や草刈り等環境保全の取り組みに対し、経費の一部助成を実施	○「九頭竜川勝山あゆ」の知名度が低い、遊漁者の減少 引き続き鮎釣り体験の事業を実施し、「九頭竜川勝山あゆ」の魅力を広くPRしていく。また、市民に対する知名度が低いことから、市内小中学の給食に鮎を提供し食べてもらう等、知名度向上を図る事業を実施していく。	

重要業績評価指標

達成  未達成  判断時期未到来 



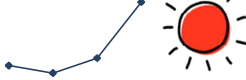

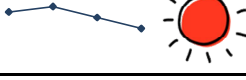


指標名	項目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
農業法人の数(組織)	目標値	—	20	21	22	23	24		達成	
	実績値	19	22	21	22					
認定農業者及び集落営農組織などの担い手への農地利用集積面積(ha)	目標値	—	1,283	1,290	1,297	1,304	1,310		達成	
	実績値	—	1,294	1,297	1,299					
多面的機能支払い交付金の取り組み集落数(件)	目標値	—	目標年次までの期間に 71 件以上						達成	
	実績値	66	68	71	71					
鳥獣害による農作物の被害面積の抑制(基準年度の被害面積以内を維持)(ha)	目標値	—	目標年次の期間中毎年3.5ha 以内を維持						未達成	
	実績値	3.5	2.4	8.7	7.2					
森林経営体への集約化率(%)	目標値	—	目標年次までの期間に12.0%以上						判断時期未到来	
	実績値	10.0	0.0	0.0	0.0					
林業従事者数(人)	目標値	—	目標年次までの期間に66 人以上						判断時期未到来	
	実績値	63	52	52	52					
遊漁券の販売額(千円)	目標値	—	14,601	14,747	14,894	15,042	15,192		達成	
	実績値	14,457	13,694	11,262	15,112					



政策分野		4つの「守る」 防災減災・生活環境			
政策目標1		自助・共助・公助の連携がとれた地域防災力の高いまち			
No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
71	災害に対する準備および体制の強化	総務課	・能登半島地震を受け、職員の体制を見直しするとともに、被災地外からの支援がない中での必要な備蓄量を定めた。 ・勝山市地域防災組織連絡会において、熊本地震に伴う対応や、避難所の現実といった、災害について学ぶための研修を実施した。 ・成器西小学校、村岡小学校、野向小学校で防災出前講座を開催した。 ・地域の防災士を養成するため、令和5年度に創設した防災士養成補助を継続し、15人に補助した。	・避難所運営・開設マニュアル等の周知を図り、災害時に円滑な避難所開設・運営ができるマニュアル作りを進める。 ・地域による避難行動要支援者に対する見守り活動などの取り組みを支援するため、個別支援計画の作成を検討していくとともに、まちづくり会館を防災拠点とし、平時から自主防災組織や民生委員と連携していく。それぞれの役割を明確にしたマニュアルを作成し周知していく。 ・災害用AR・VRを導入し、全小中学校で防災力の向上を図る。 ・避難所生活環境の向上を図るため、避難所用ベッドやテント、トイレカー等の発災後すぐに必要な資機材を整備する。	
72	積雪時における安全で安心できる除排雪体制の確保	建設課	除雪活動助成事業において促進を促し、新たに1自治区と1地域コミュニティの取組申請があり、事業の拡大を図れた。	引き続き除雪活動助成事業による支援を継続し冬季も安全な道路を確保する。また、原油価格高騰対策として報償費の見直しを行い、各団体が取り組みやすいようにする。	
73	住宅の改修を支援	営繕課	・地震による建築物等の倒壊から市民の生命、身体及び財産を保護するため、旧耐震の木造住宅(伝統的な古民家を含む)の所有者が耐震診断及び補強プランの作成又は耐震改修工事に要した費用の一部を補助した。【令和6年度耐震診断補助件数:25件】 ・地震災害によるブロック塀等の倒壊に伴う被害防止と避難経路確保のため、避難路に面する危険ブロック塀等の除去に係る費用の一部を補助した。【令和6年度ブロック塀解体補助件数:10件】 ・勝山市内民間建築物のアスベスト使用実態を把握し、アスベストによる市民の健康被害の未然防止を図るため、アスベストの含有の有無等に係る調査に要する経費の一部を補助した。【令和6年度アスベスト調査補助件数:2件】 ・屋根雪降ろしの負担を軽減し、雪に強く少子高齢化社会に対応した安全で安心して暮らせる住環境整備の促進のため、住宅の屋根融雪装置等に要する経費の一部を補助した。【令和6年度克雪住宅補助件数:2件】	・地震による建築物の倒壊等の被害から市民の生命、身体及び財産を保護するため、旧耐震の木造住宅(伝統的な古民家を含む)の所有者が耐震診断及び補強プランの作成又は耐震改修工事に要する経費の一部を補助。 ・屋根雪降ろしの負担を軽減し、雪に強く少子高齢化社会に対応した安全で安心して暮らせる住環境整備の促進のため、住宅の屋根融雪装置等に要する経費の一部を補助。 ・地震災害によるブロック塀等の倒壊に伴う被害防止と非難経路確保のため、避難路に面する危険ブロック塀の除去に係る費用の一部を補助。 ・勝山市内民間建築物のアスベストの使用実態を把握し、アスベストによる市民の健康被害の未然防止を図るため、アスベストの含有の有無等に係る調査に要する経費の一部を補助。 ○ 補助金制度の周知を引き続き実施。	
74	空き家等の減少に向けた対策の強化	営繕課	・空き家流通促進を目的とした無料相談会を実施した。 令和6年6月15日・・・サンプラザ正面玄関前で実施 ・空き家情報バンクにおいて、市内の住宅情報を提供した。 ・管理不全な空き家等の所有者に対し助言または指導等を実施した。 ・地域の安全性向上のため、市内における防災、防犯上危険な老朽空き家の撤去の費用の一部を補助した。【令和6年度解体補助件数:3件】	・空き家流通促進を目的とした無料相談会を実施する。 ・空き家情報バンクにおいて、市内の住宅情報を提供する。 ・管理不全な空き家等の所有者に対し助言または指導等を実施する。 ・地域の安全性向上のため、市内における防災、防犯上危険な老朽空き家の撤去の費用の一部を補助する。 ○ 空き家の適切な管理等に係る周知を実施。 ○ 補助金制度の周知を引き続き実施。	
75	火災予防対策の強化	消防署	5件の火災のうち、住宅火災が3件あった。数値目標である10件以下は達成された。	住宅用火災警報器の更新の認識を高め、焼死者ゼロを目指す。	
76	消防体制の充実	消防署	・令和6年度の消防車両、救急車両の更新はなし。 ・令和6年度消防水利施設新設はなし。消火栓6基の移設又は更新、消火栓標識6式更新。 ・自衛消防隊可搬式小型動力ポンプの更新 5地区 各地区自衛消防施設の更新等の補助を実施。 ・広報かつやまに消防団の名簿の掲載、入団促進ポスターを作成し各地区で掲示した。 ・令和6年度消防団員数291名であった。 ・消防団のあり方検討委員会を計3回開催し、今後の勝山市消防団について検討を行った。	・令和7年度以降の更新計画の見直しを図った。 ・3年に1回の実態調査により、消防水利施設設置場所の選定や見直しを行い水利充足率の向上を目指す。 ・自衛消防隊可搬式ポンプの経過年数による更新のみに拘らずに、故障や修繕においても修理不能な場合にも、更新を繰り上げて対応する。 ・目標値の団員数の確保を維持する。 ・消防団員のなり手不足による団員減少が予想されることから、引き続き今後の消防団のあり方を検討する。	
77	救急体制の充実	消防署	・ホームページ、講習会での周知、ポスター掲示、街頭チラシ配布。 ・各種救急隊向けの講習会、救急隊員の症例検討会への参加。 【令和6年度実績:普通救命講習83名、上級救命講習5名、救急講習会855名、応急手当普及員講習5名、計948名受講】	・普通救命講習の開催日を最終日曜日に固定せず、受講者の希望の沿う日での開催を図る。 ・消防団員、警察官への普通救命講習や救急講習を積極的に進める。 ・「＃7119事業」、「＃8000事業」の推進PRを行い、救急車の適正利用の推進を図る。 ・福井県MC協議会が推奨するPEMEC、JPTEC、PH-OSCHの受講の促進を図る。また積極的な救急ディスカッションが行える意見交換会の場を設ける。	

重要業績評価指標

達成  未達成  判断時期未到来 


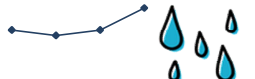

指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
消雪施設の整備延長(km)	目標値	—	19.3	19.5	19.7	19.9	20.1		達成	
	実績値	19.1	19.3	19.4	19.9					
市民アンケートにおけるお住いの区での消防・防災訓練に参加している人の割合(積極的に参加、ときどき参加の合計)(%)	目標値	—	—	42.0	—	—	50.0		—	
	実績値	33.5	—	33.0	—	—				
旧耐震基準時に建てられた木造住宅の耐震診断及び補強プランの作成に伴う費用に対して補助した件数(件)	目標値	—	目標年次の期間中毎年10 件以上						達成	
	実績値	8	6	10	25					
防災、防犯上危険な空き家の解体工事について、その費用を補助した件数(件)	目標値	—	目標年次の期間中毎年5件以上						未達成	
	実績値	10	5	3	3					
火災件数(件)	目標値	—	目標年次の期間中毎年10 件以下						達成	
	実績値	8	9	7	5					
普通救命講習およびAED※を含む救急講習受講者数(人)	目標値	—	目標年次の期間中毎年1,200 人以上						未達成	
	実績値	535	666	1,053	948					
消防団員の実員数(人)	目標値	—	目標年次の期間中毎年290 人以上						達成	
	実績値	292	292	293	291					

政策目標2安全で快適な生活環境が維持された住みやすいまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
78	生活環境の汚染を防止	市民課	・毎年の河川水(採水箇所8か所)や地下水(3か所)の水質検査の実施。令和6年度は、国道157号沿い地区の騒音測定を実施。 ・狂犬病発生予防のため、集団接種を実施した。(R6年度実績 72頭)	・令和7年度以降も定点での定期的な水質検査を実施する。また、令和4年度から6年度にかけて、順次必要箇所での騒音測定を行う。 ・令和7年度以降、引き続き狂犬病予防接種について、広報や集団接種を行う。	
79	防犯体制の充実	総務課	①防犯カメラ設置支援事業補助金 補助率:2/3(うち県1/3) 1台当たり10万円上限、かつ、1区あたり100万円上限 【4地区 計800,000円を交付】 ②公衆街路灯設置等補助金 補助率:1/2 LED器具1台あたり上限28,000円、ポール1本あたり上限25,000円 【23件 計463,400円を交付】 ③公衆街路灯電気料補助金 公衆街路灯電気料の年間支払額の1/2 【113件 計3,322,400円を交付】	令和7年度も引き続き当該補助事業を継続。	
80	安全で快適な公共交通体系の構築	未来創造課	・AIを活用した新たな乗り合い送迎サービスの導入を視野に入れ、AI運行バスを導入している自治体や実施事業者への視察や打ち合わせを実施した。 ・これまでの利用実績、運行履歴をもとにスクールバスの運行経路について、庁内協議および関係機関との連絡調整を行った。	・福井運輸支局や福井県、市内交通業者等との連携を密にし、新たな公共交通システムの導入に向けた課題整理や情報交換を行う。 ・令和9年度の新中学校開校のタイミングに合わせた市内公共交通体系の構築について、庁内協議および関係機関との連絡調整を行う。	
81	交通安全対策の推進	市民課	・四季の交通安全県民運動に合わせて早朝一斉街頭指導・広報車による広報活動を実施。 ・市内保育園、こども園、幼稚園で春・秋・冬に幼児交通安全教室を実施。 ・市内小学校で春に自転車ヘルメットの着用促進を目的とした交通安全教室を実施。	引き続き街頭での交通指導、広報活動、自転車ヘルメット着用率アップに向けた活動を実施。 幼児、小学生を対象とした交通安全教室の実施。	
82	消費者教育の推進	市民課	・学校授業やふれあいサロンほかの講座を実施。(R5年度 54件、R6年度 42件) ・毎月発行の広報などで啓発記事を掲載している。	教育啓発活動の対象拡大及び関係機関との連携を進めていく。	

重要業績評価指標

達成  未達成  判断時期未到来 

指標名	項 目	令和2年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
市民アンケートにおけるバスの利用頻度(ほぼ毎日、週1 回以上、月2 から3回程度、月1 回程度以上利用する割合の合計)(%)	目標値	—	—	5.0	—	—	10.0		—	
	実績値	3.6	—	—	—	—				
運転者年齢別交通事故(人身事故)発生件数(60歳以上)(人)	目標値	—	8	7	6	5	4		未達成	
	実績値	9	8	9	13					
消費者教育・啓発を受けた経験がある人の割合(%)	目標値	—	目標年次の期間までに70.0%以上						判断時期未到来	
	実績値	50.0	63.0	63.0	63.0					

政策目標3

地球にやさしく環境意識が高いまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
83	ゼロカーボンシティ実現に向けた取り組みを強化	未来創造課	・ゼロカーボンシティの実現に向けた計画「勝山市ゼロカーボンシティ2050ロードマップ」を策定した。2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指している。 ・ゼロカーボンシティの実現に向けた意識の向上を図るため、10月に開催した複合型イベント「WakuWaku文化フェスタ」において、エコクイズ大会、エコ工作、エコドライブ体験などの催しを実施した。 ・市内小学5年生を対象に、日常生活の中での取り組みを通じて二酸化炭素の排出量を削減できる「かつやまゼロカーボンチャレンジ」を実施し、児童の意識の向上を図った。 ・電気自動車の普及促進のため、市内公共施設等への電気自動車の充電ステーションの設置を行った。 ・Jクレジット制度の活用に向け、庁内関係課や事業者との協議を行った。 ・再生エネルギーの利用による二酸化炭素排出量低減のため住宅における太陽光発電設備及び蓄電池の設置に対して補助金を交付した。	・勝山市の脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて市民への周知を図るため、市民向け講演会や学校向けのPR事業を実施する。(令和5年度からの継続事業) ・Jクレジット制度を活用することで、市有林の二酸化炭素吸収量の認証及び売却を目指す。 ・市内で事業化をめざしている小水力発電事業者と協議を行う。 ・住宅における太陽光発電設備及び蓄電池の設置に対して補助金を交付する。(令和6年度からの継続事業)	
84	ごみの分別および減量、リサイクルを促進	市民課	・令和6年度よりごみの分類にプラスチック資源が追加されたことから、更なる市民への周知のため広報紙等で広報を行い、市民のごみ減量に対する意識の向上、廃棄物の適正な処理の推進を図った。 ・古紙等の集団回収の促進に努めた。(R5実績：766,630kg、R6実績：813,140kg)	ごみ減量化意識の向上に向けた広報の実施方法の検討のほか、古紙等の回収増に向けた広報や引き続きプラスチック資源の分別回収の実施を行う。	
85	景観の保全	建設課	推進地区内の平泉寺区景観形成地区にて1件、本町通り景観形成地区1件の景観整備事業に対する補助を実施し、良好な景観の保全・形成を図る。	推進地区内の本町通り景観形成地区1件の景観整備事業に対する補助を実施し、良好な景観の保全・形成を図る。	

重要業績評価指標

達成  未達成  判断時期未到来 

指標名	項 目	令和2年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
市民アンケートにおける「省エネルギーや再生可能エネルギーの利用促進による低炭素社会の構築」に満足している人の割合(満足、どちらかといえば満足の合計)(%)	目標値	—	—	20.0	—	—	30.0		—	
	実績値	11.0	—	12.1	—	—				
1 人1日当たりごみ排出量(g/人・日)	目標値	—	—	—	—	—	800		判断時期未到来	
	実績値	903	—	—	—	—				
ごみの総量におけるリサイクル率(%)	目標値	—	—	—	—	—	24.8		判断時期未到来	
	実績値	21.6	—	—	—	—				
勝山市歴史的まちなみ景観創出事業補助金の交付件数(件)	目標値	—	150	152	154	156	158		達成	
	実績値	148	152	153	155					






政策目標4

安心して快適に暮らせる都市基盤が維持されたまち

No	施策名	担当課	内容・実績(令和6年度)	課題と対応策(令和7年度以降)	委員の意見
86	安全な水の安定供給の維持	上下水道課	・重要給水施設へ向かう配水管の布設替え工事に合わせて管の耐震化を計画的に実施する ・水源地や配水池の適切な管理のため、立川水源地No.3送水ポンプ更新、立川第2水源地4号井取水ポンプ更新、若猪野水源地1号井取水ポンプ取替、栃神谷配水池ほか水位計更新、法恩寺配水池高圧受電盤遮断器取替、鹿谷配水池配水流量計更新、新道配水池電動三方弁取替、八萬～雁ヶ原遠方監視制御装置更新工事等を実施、また、令和4年8月の大雨被害対応として、谷水源地取水口及び導水管布設工事等と実施 ・中期財政見通しを作成し経営状況を確認	・重要給水施設へ向かう配水管の布設替え工事に合わせて管の耐震化を計画的に実施する ・水源地や配水池の適切な管理のため、立川水源地の水位計更新、若猪野水源地の送水ポンプ更新、法恩寺浄水場の逆洗弁と濁度計の更新、聖丸配水池ほかの水位計更新、雁ヶ原送水ポンプ場の送水ポンプ更新等を実施する。 ・配水管や配水補助管の布設、布設替えを実施する ・中期財政見通しを作成し経営状況を確認する	
87	水処理施設の効率的な更新	上下水道課	・汚泥受入施設実施設計業務を実施 ・下水管渠現況調査を令和4年度分を含めて実施 ・下水処理施設の計画的な改築・更新のため、保田出村第1污水中継ポンプ所、保田出村第2污水中継ポンプ所、西遅羽口第1污水中継ポンプ所、高島第1污水中継ポンプ所、淀川污水中継ポンプ所のポンプ取替、保田第2污水中継ポンプ所圧送管布設工事を実施 ・三谷川浸水対策事業として大蓮寺バイパス幹線整備工事等を実施 ・中期財政見通しを作成し経営状況を確認 ・令和6年4月からの公営企業法適用化に向け、条例改正や開始貸借対照表の作成、打ち切り決算等実施	・汚泥受入施設実施設計業務、建設工事業務を実施する ・下水処理施設の計画的な改築・更新のため、千代田第1污水中継ポンプ所、淀川第1污水中継ポンプ所、堀名第1污水中継ポンプ所等のポンプ取替等を計画的に実施する。 ・立川枝線下水管渠布設、長尾枝線下水管渠布設、郡枝線下水管渠布設工事を実施する。 ・中期財政見通しを作成し経営状況を確認する。	
88	社会資本の適切な維持管理	建設課	勝山市公園施設長寿命化計画に基づき、猪野瀬公園にて、老朽化した休憩所の改築、片瀬第2公園にて老朽化した転落防止柵の改修、北部第2公園、南部第1公園においては遊具更新老朽化した改修を行った他、長尾山総合公園にて老朽化した防護柵、舗装の改修を行った。また、パトロールや通報等により確認された公園トイレ等の漏水修繕、外灯修繕を実施し、公園利用者の安全性、利便性の向上を図った。	勝山市公園施設長寿命化計画に基づき、長尾山総合公園にて、老朽化したベンチの改修、舗装の更新を行い、長山公園にて老朽化した防球ネット、防護柵の改修を行う予定。また、引き続きパトロールや通報等にて確認された公園トイレ等の漏水修繕、外灯修繕を実施し、公園利用者の安全性、利便性の向上を図る。	
89	計画的な都市基盤の整備	建設課	都市再生整備計画に基づき、勝山市のシンボルロードである(都)元禄線を歩行者動線に配慮したコミュニティー道路として整備をおこなった。	引き続き都市再生整備計画に基づき、都市機能誘導区域への公共施設の集約を図るため、都市機能誘導区域外に位置している中学校を区域内に整備する。	

重要業績評価指標

指標名	項 目	令和3年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	実績推移グラフ	達成度	委員の意見
水道事業における基幹管路(84,063m)の耐震適合率(%)	目標値	—	14.7	16.0	17.4	19.0	20.3		未達成	
	実績値	13.5	14.1	14.8	14.8					
下水管渠現状調査(第1 期分17,498m)の実施割合(全体調査予定延長51,937m)(%)	目標値	—	21.4	42.8	63.4	81.9	100		未達成	
	実績値	0	0	20.4	32.8					
橋梁の修繕工事着手数(のべ)(橋)	目標値	—	34	36	37	40	40		未達成	
	実績値	27	31	35	35					